

◇ 消防のあゆみ ◇

明治 12年	一色村に消防器具を備えた消防体制が整備される。
明治 17年	一色村に私設消防組が誕生。
明治 25年	中里地区に私設消防組が誕生し、その後二宮、梅沢、山西の各地区に消防組誕生。
明治 37年	公設消防組を設置。(一色、中里、二宮、山西の各消防組)
大正 12年 9月	関東大震災発生。圧死21人、焼死4人、重傷者26人、全焼6戸、全壊406戸、半壊364戸、罹災人員4,716人。
昭和 6年	二宮消防組の手押ポンプを廃し、ガソリンポンプに切替。
昭和 10年 10月	葛川氾濫による水害発生。流失6戸、半壊4戸、床上浸水137戸、床下浸水155戸、道路欠損39ヶ所、橋流失17ヶ所、罹災人員1,639人。
昭和 12年 9月	各地区消防組を統一、二宮消防組となる。
昭和 14年 4月	二宮町警防団となる。(警防団員431名)
昭和 15年 1月	南口駅前大火発生。全焼69戸、半焼4戸、焼失棟数106棟、罹災人員374人。第1分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和 16年 7月	葛川氾濫による水害発生。流失9戸、床上浸水124戸、罹災人員 2,940人。
昭和 23年 4月	消防組織法が施行され、自治体消防として消防団を設置。(4個分団、消防団員258名) 二宮町消防団条例、規則、服務規程等を制定。
昭和 24年 6月	二宮町火災予防条例を制定。
昭和 27年 5月	第1回全国消防大会開かれる。
昭和 29年 4月	第2分団区域を2区域に分割、第2、第3分団とし、従来の第3、第4分団をそれぞれ、第4、第5分団と名称を変えて5個分団に組織替えし、1個分団20名編成となる。(団員数103名)
11月	第3分団消防車庫を新築、同分団に消防ポンプ自動車、第4、第5分団に小型動力ポンプと積載車を配備。
昭和 30年 7月	県営水道が開通、消火栓を設置。
10月	第2分団に消防ポンプ自動車を配備。
昭和 32年 8月	二宮町消防団員等公務災害補償条例・規則を制定。 第7回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
昭和 33年 3月	(財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
7月	二宮町消防団条例・規則を改定。
昭和 34年 11月	第1分団の消防ポンプ自動車を更新。
昭和 35年 8月	第10回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
昭和 36年 9月	電話自動化により火災専用電話(119番)を役場に設置。
12月	第4、第5分団の小型動力ポンプ更新。
昭和 37年 3月	消防庁長官より表彰、竿頭綬を受ける。
7月	二宮町火災予防条例を改正。
昭和 38年 9月	第13回県消防操法大会(小型動力ポンプの部)に第5分団が出場。

- 昭和 39年 3月 第2分団消防車庫を新築。
二宮町消防団員退職報償金制度が確立され、市町村の支給責任の共済制度を設ける。
二宮町非常勤消防団員に係る退職報償金支給条例を制定。
- 昭和 41年 1月 第4分団消防車庫を新築。
10月 第16回県消防操法大会(小型動力ポンプの部)に第4分団が出場。
12月 第4分団に消防ポンプ自動車を配備。(BS-I型)
- 昭和 42年 1月 第5分団消防車庫を新築。
12月 第5分団に消防ポンプ自動車を配備。(BS-I型)
- 昭和 43年 3月 第1分団消防車庫を新築。
(財)日本消防協会より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
4月 二宮町非常勤消防団員退職報償金支給条例施行規則及び二宮町消防団員
服務規程を制定。
8月 二宮町火災予防条例施行規則を制定。
10月 第1回二宮町消防操法大会開催。
- 昭和 44年 10月 第2回二宮町消防操法大会開催。
第19回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場。
- 昭和 45年 3月 消防庁長官より表彰旗を受け、表彰旗の伝達、披露式典。
12月 第3分団消防ポンプ自動車(水槽付)を更新。
- 昭和 46年 3月 二宮町課等設置条例の一部を改正し従来の総務課消防係より、4月1日
付けをもって消防課の設置を議決。
4月 県消防学校教官山崎勝也氏の派遣を受け、1年間の創設業務と職員の教
養指導を行う。
6月 二宮町消防職員の特殊勤務手当に関する条例の制定。
8月 神奈川県より救急自動車(トヨタMS66VY)の寄贈。
第21回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
9月 二宮町救急業務規則、二宮町消防職員の勤務時間等規則を制定。
救急業務開始(6日)。山崎消防課長以下職員15名。
11月 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
12月 第2分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
二宮町消防本部及び消防署の設置等に関する条例、二宮町消防賞じゅつ
金条例・規則の制定。
- 昭和 47年 1月 二宮町消防本部組織規則のほか、常備消防として必要な規則、規程を
制定。
消防庁舎竣工。
2月 二宮町消防本部・消防署を設置。(職員20名 定員28名)
消防署水槽付消防ポンプ自動車を配置。(水-I B型)
8月 第22回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
- 昭和 48年 1月 消防署屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入。(15m級)

- 昭和 48年 3月 第3分団消防車庫を新築。
 4月 消防職員定数33名となる。
 8月 第23回県消防操法大会に消防署が屈折はしご付消防ポンプ自動車基準操法で出場。
 11月 自治体消防発足25周年記念式を行う。
- 昭和 49年 2月 消防署に台車付小型動力ポンプを配備。
 4月 消防署に緊急工作車(小型動力ポンプ積載)を配備。
 8月 第24回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第5分団が出場。
 9月 第1分団消防ポンプ自動車を更新。(BS-I型)
- 昭和 50年 9月 消防署車庫増築。
- 昭和 51年 4月 消防本部組織を一部変更、警防係を分割し予防係を新設。
 8月 第26回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第4分団が出場。
 9月 藤田観光(株)より救急自動車の寄贈。
- 昭和 52年 9月 消防団条例改正審議始まる。
- 昭和 53年 3月 自治体消防発足30周年記念式を行う。
 消防団条例改正、議会で可決。
 4月 消防団員103名から78名に減員。
 8月 第28回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場し、最優秀賞を獲得する。
 10月 全国消防操法大会に二宮町消防団として第3分団が出場。
- 昭和 54年 7月 消防署指令車更新。
- 昭和 55年 8月 第30回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
- 昭和 56年 2月 二宮町防災備蓄倉庫落成。
 11月 第4分団小型動力ポンプ更新。
- 昭和 57年 2月 (財)日本消防協会特別表彰「まとい」受賞。
 3月 日本消防協会特別表彰「まとい」受賞の記念式典を行う。
 7月 第1・第2・第3分団小型動力ポンプを配備。
 従来からの第4・第5分団を含み全分団配備する。
 8月 第32回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
 11月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。
- 昭和 58年 6月 第5分団車庫移転、新築。
 8月 第33回県消防操法大会に消防署が応用操法に出場。
 10月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 59年 8月 第34回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第5分団が出場。
- 昭和 60年 3月 消防署救急自動車更新。
 10月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 62年 3月 (財)日本消防協会より表彰、竿頭綬を受ける。
 9月 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車の寄贈。(BD-I型)
 11月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 昭和 63年 7月 消防署指令車更新。

- 昭和 63年 8月 第36回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第4分団が出場し、優秀賞を獲得する。
(財)日本消防協会より小型動力ポンプ付積載車の寄贈。
- 平成 元年 10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 2年 7月 消防署救急自動車更新。
- 平成 3年 8月 消防署資機材搬送車を購入。
9月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 4年 4月 消防職員定数34名となる。防災担当職員1名町部局より派遣。
7月 第38回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場。
9月 消防署はしご付消防ポンプ自動車購入。(15m級)
- 平成 5年 4月 消防職員定数36名となる。
- 平成 6年 4月 消防職員定数37名となる。
11月 救急救命士の配置を開始。
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣。
11月 消防署高規格救急自動車を購入。
- 平成 8年 4月 消防職員定数38名となる。
7月 第40回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場。
12月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水-I B型)
- 平成 9年 4月 消防本部組織を一部変更、消防課を新設、1課3係となる。
消防職員を町防災部局への派遣開始。
- 平成 10年 3月 庁舎増設部完成、緊急情報システム更新。(I型)
10月 庁舎既存部耐震補強工事完成。
11月 第4分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第4分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 11年 9月 第2・第4分団車庫耐震補強工事完了。
- 平成 12年 7月 第42回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第1分団が出場。
8月 消防団無線を整備。(団本部・分団車両・携帯無線機)
12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
- 平成 13年 1月 (財)日本消防協会へ第5分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
3月 (社)日本自動車工業会より高規格救急自動車寄贈され、消防署救急自動車の更新と高度救命資器材等を整備。
- 平成 14年 2月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD-I型・災害対応特殊仕様)
- 平成 15年 10月 第3分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第3分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 16年 7月 第44回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第5分団が出場。
消防署積載車更新。
- 平成 17年 4月 消防職員定数46名となる。
10月 第2分団消防ポンプ自動車更新。(CD-I型)
12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 18年 4月 平塚市消防本部と職員交流実施、1名派遣。
12月 (財)日本消防協会へ第2分団旧消防ポンプ自動車を寄贈。

- 平成 18年 12月 消防署救助工作車購入。(Ⅱ型)
- 平成 19年 8月 第1分団消防ポンプ自動車更新。(CD－Ⅰ型)
- 平成 20年 2月 (財)日本消防協会より広報車の寄贈。
7月 第46回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第4分団が出場。
- 平成 21年 2月 第1分団消防車庫を更新。
3月 (社)日本自動車工業会より高規格救急自動車が寄贈され、救急自動車の更新と高度救命資器材等を整備。
4月 組織・機構改革により、班長制の導入。
7月 消防署指令車購入。
- 平成 22年 9月 (財)日本外交協会へ消防署旧はしご付消防ポンプ自動車を寄贈。
- 平成 23年 3月 東日本大震災に伴い、緊急消防援助隊(計2隊・13名)を派遣。
- 平成 24年 1月 消防署水槽付消防ポンプ自動車更新。(水－ⅠB型・国庫補助事業)
2月 (財)日本外交協会へ消防署旧水槽付消防ポンプ自動車を寄贈。
7月 第48回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第3分団が出場。
- 平成 26年 3月 (財)日本消防協会より表彰第3回目の竿頭授受ける。
第3分団消防車庫を更新。
12月 消防署救急自動車更新。(高規格・国庫補助事業)
- 平成 28年 4月 組織・機構改革により、消防課の2班制(庶務班・予防班)、消防署警備隊の3部制試行導入。
6月 第41回県消防救助技術指導会出場、陸上の部「ほふく救出」第1位。
7月 第50回県消防操法大会(ポンプ車操法の部)に第2分団が出場し、優秀賞を獲得する。
8月 第45回全国消防救助技術大会「ほふく救出」に出場。(愛媛県松山市)
- 平成 29年 3月 消防庁長官より表彰、竿頭授を受ける。
4月 平塚市・大磯町・二宮町共同消防指令センター運用開始。
10月 消防署消防ポンプ自動車更新。(CD－Ⅰ型)
- 平成 31年 4月 組織・機構改革により、消防課の3班制(庶務班・予防班・警防班)、消防署警備隊の2部制導入。
- 令和 元年 9月 消防署救急自動車更新。(高規格・国庫補助事業)
- 令和 2年 3月 総務省消防庁より救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車(3.5t未満)が無償貸与される。
4月 第52回県消防操法大会中止。(第1分団出場予定)
6月 第2分団に救助資機材搭載型小型動力ポンプ積載車(総務省無償貸与)を更新車両として配備。
第4分団に前第2分団消防ポンプ自動車(CD－Ⅰ型)を更新車両として配備。
12月 第5分団消防ポンプ自動車更新。(CD－Ⅰ型 3.5t未満)
- 令和 3年 5月 第53回県消防操法大会中止。(第1分団出場予定)
7月 静岡県熱海市土石流災害に伴い、緊急消防援助隊(計2隊・10名)を派遣。
- 令和 4年 4月 消防職員定数51名となる。
機能別消防団員を創設。消防団員定数88名となる。